

# 平成 28 年度 学校法人 三幸学園 東京医療秘書福祉専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 細野 洋明

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 太田 亮一

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療、介護、保育分野の学校として「医療、介護、保育を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療、介護、保育分野として「医療、介護、保育を通じて〇〇のこうして欲しいを理解し考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

・人間性を高める教育の実践 高い現場力の醸成

「相手のこうして欲しいを理解し、考え続ける人材」を育成する事を目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出することができる考え、教育活動を展開してきた。

・学修成果としての数値目標としては下記を掲げて取り組んできた。

皆精勤 65%以上

退学率 4.0%以内

就職率 100%

学修成果としては、退学率の低減という目標に対して、平成28年度 4.5%の結果だった。目標の 4.0%には届かなかったものの、前年度退学率6.6%と比較すると、昨対で2.1%低減することが出来た。次年度においても、退学率 4.4%の目標を掲げているので、引き続き退学率の低減に向けて学校全体で取り組んでいきたい。資格取得率においても概ね全国平均よりも上回り、高い結果を残すことが出来た。その一方で就職の面においては、年度末までに就職率 100%を目指し、就職指導を行ってきたが、年度末の時点で就職率が 97.6%とまだまだ課題が残る。次年度については、戦略的に就職支援をすることにより年度末時点での就職内定率 100 を目指していきたい。また、皆精勤においては 55.8%と目標には及ばず、また前年度の 57.3%と比較しても下がってしまっている。学校に来ることの意味や目的を伝え、全教員一丸となって価値ある教育を提供し、生徒が来たいと思える学校運営をしていきたい。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

・目標設定値も適正であり、評価に関しても適正であると考え

・希望する就職を目指し、資格も合わせて取りながら、就職率の 100%目指せると良い

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ① 課題

- ・業界のニーズを的確に把握し、それを学校の将来構想、教育目標、目指す育成人材像に反映させる
- ・医療秘書分野の産学連携の強化

#### ② 今後の改善方策

- ・医療機関訪問の際に「業界のニーズの把握、業界理解」を念頭において、各人が目的意識を持って訪問する。  
また、それを教務、キャリアサポートそれぞれの面において活用し、業界のニーズに合わせた目標設定をする。

#### ③ 特記事項

三幸学園は、昭和 60 年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「全体会議（年4回開催）」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「未来デザインプログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

また、〇〇のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」を育成することを、目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出することができると考えている。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・積極的に病院に訪問をすることで、病院のニーズや現状を把握することができる
- ・ボランティア活動を行うことで、実習以外でも医療機関、施設の中を知ることができる
- ・ボランティア活動の機会を各都道府県で設けているので、そこに参加してもよいのではないかと

## (2) 学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

- ・業務の効率化、役割の明確化をすることにより教職員のワークライフバランスの浸透を図る
- ・情報システム化により、業務の効率化を更に推し進める

### ② 今後の改善方策

- ・校務メンバー対象の研修等の実施により、役割の明確化・業務の効率化を図る
- ・グループウェアの効果的な活用方法の理解・促進

### ③ 特記事項

#### 1. 運営方針

三幸学園のミッション「人を活かし、世の中の困難を希望に変える」、ビジョン「人を活かし、日本を、そして世界を明るく元気にする」を達成するための今年度の方針を指し示す場として、毎年J職・E職・K職を対象にビジョンミーティングを開催。そこで、今年度の方針等についての浸透を図る。学則に定めた学校の目的、及びそれを達成するための教育目標に基づき、校長、または副校長が「学校運営方針」を定め、その方針に基づき「教務」「キャリアサポート」等各校務分掌担当者がそれぞれの「運営計画」を作成している。各年度の「学校運営方針」、教務、キャリアサポートの「運営計画」は年度開始時に開催する全体会議を通して、全教員に示している。教育方針の更なる浸透、共有化のために、全教職員が一堂に会する全体会議を年に4回開催することを定例化している。

#### 2. 事業計画(経営計画)

学則に定めた学校の目的、及びそれを達成するための教育目標に基づき、校長の指示の下、副校長は理事会の承認を得て、学校の年度毎の「事業計画(経営計画)」を策定している。「事業計画(経営計画)」には予算等を明示している。各学科、校務分掌組織は「事業計画(経営計画)」により年間の予算等の運営計画を策定して、業務を遂行する。

#### 3. 組織運営

##### (1) 設置法人

本校を設置する法人である三幸学園は、理事会、評議員会を適切に開催している。理事会、評議員会においては必要な審議を行い、適切に議事録を作成している。

(2) 本校

本校の学校運営の組織と構成員、校務分掌は、「三幸学園組織図」「学則」「校務分掌表」に示している。「学則」は、年度ごとに見直しを図られ必要に応じた学則変更を行っている。「校務分掌表」には組織の構成員と担当する校務を明記している。

4. 人事・給与に関する制度

(1) 採用

教員については、関係法令により教員資格が定められている分野は、規定どおりの人材を確保している。他の分野においても必要要件を満たした人材を確保している。近年、業界の動向を熟知し、当校の理念や運営方針についても理解が深い卒業生の採用に関して積極的である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・年度始めに重点課題を教職員全員が把握できるような体制を作ることが必要ではないか
- ・各個人が業務計画表を作成し、それに伴った時間管理を行うことで業務の効率化を図ることができるのではないか
- ・業務の最適化を図っている。必要な業務と不必要な業務の精査を行っている

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

- ・キャリア教育を推し進めるために社会ニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を開発する
- ・授業評価、実習先評価の精度向上と教育への反映
- ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラム作成・見直しが行われていない

#### ② 今後の改善方策

- ・提携企業との連携を強化し授業科目の開設と授業方法の改善・工夫を行う
- ・授業評価における評価項目の見直しを実施し教員の質を向上させる
- ・産学連携、現場に足を運び直接話を伺う

#### ③ 特記事項

- ・平成27年度より学生による授業評価の見直しが完了し、実習先(企業)と実習生(学生)による相互評価を実施
- ・教員指導力向上のための研修(アクティブラーニング研修)を実施している
- ・平成27年4月教育開発部設置やトライアクションの実施により主体的な生徒の育成、また教員の統一した指導・教員指導力向上が期待できる

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・自ら考え、動く主体性を持った学生が少なくなった印象がある。また、全体的にコミュニケーションをとることが苦手であるように思える。SNSの普及も原因としてあるのではないか
- ・アクティブラーニングは、現状高校生の授業で既に行っている現状があり身につけているのではないか
- ・実習手帳などの記録に関して行ったことをただ書く学生が多い。内容を要約し、それに対してどう取り組んだのかを記載することが苦手であるように見える
- ・学生によって主体性が育っている学生もいる。その学生は、リーダー的な役割を果たしていることが多いように思える。積極的に学生時代にリーダーをやる環境を作ると良い
- ・主体性を未来デザインプログラムの授業で学ぶことができるのではないか

#### (4)学修成果

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映
- ・卒業生のセカンドキャリアサポートが不十分
- ・業界のニーズに対応するために、教育体制を変化する際のスピードをより速くしたい
- ・皆精勤率の低減
- ・資格による合格率の差

##### ② 今後の改善方策

- ・同窓会サイトSANKO LINK を活用し卒業生の情報を把握
- ・医療機関へ訪問する際の目的の明確化、効果的な訪問のシステム作り
- ・資格取得への動機づけの強化及び環境面への整備
- ・変化に対応できる柔軟でスピード感のある体制づくり
- ・教科毎の振り返りと対策、教員の一体化・連携による、授業力の向上

##### ③ 特記事項

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・外国語教育が必要ではないか
- ・介護福祉士の資格に関しては、合格不合格にかかわらず、人材不足の面があるので、就職できないということはない。資格手当の部分、給与面に差が生じてくると思われる
- ・介護業界は人が集まらない現状はある
- ・就職に関しては、本人の希望と就職先とのギャップが生じているため、まずは本人がどういう職種につきたいのかをしっかりと考える必要がある
- ・医療業界、介護業界の魅力をしっかりと伝えていくことが必要ではないか
- ・3年以内離職率も数値として出してみるのも良いのではないか

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生に対する支援体制は充実しているものの、それが卒業生に周知されていない
- ・中途退学者への支援体制の充実度

② 今後の改善方策

- ・卒業生との連携強化、支援体制の認知を進めるため同窓会サイトSANKO LINKを活用する
- ・三幸学園の規模を活かし、中途退学者へのその後の進路に対する支援体制を充実させる

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし



(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・特別な事情により実習等を継続できない学生の支援体制

② 今後の改善方策

・家庭との連携強化により、各学生の状況を正確に把握する

・レアケースにもご対応頂けるよう、実習やインターンシップ先の医療機関や施設との関係性の強化

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・他校と比べても、あいさつ、礼儀などの基本的なことはしっかりと出来ている

・実習中の悩みを生徒同士で共有することで、お互いの実習を有意義なものにできるのではないか

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・当校入学者の減少(特に介護福祉、医療系学科)

② 今後の改善方策

・医療事務(秘書)の長く働けることへの理解促し

③ 特記事項

・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている

・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高校生が、医療現場を知る機会を設けても良いのではないかと

・最先端の病院を知ること、医療業界に興味を持つことができる

・他校との違いにおいては、ブランド力、キャッチフレーズが弱い部分があるように思える

・東京医療秘書福祉専門学校の売りを在校生、高校生、各業界にしっかりと伝える

・

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

・中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

・ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要

② 今後の改善方策

【中期計画】

・今年度の新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

・今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載することとなっている。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく

③ 特記事項

・平成26年度より、私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行い結果を報告している

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・ボランティア活動の活性化
- ・地域貢献活動の周知

② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動の積極的な告知、促し
- ・地域貢献活動の告知・姉妹校の活用

③ 特記事項

- ・平成28年度より、地域貢献活動として「Mama&Kids room」の開設

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

## (11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

### ① 課題

- ・留学生受け入れにおける適切な体制作り
- ・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある

### ② 今後の改善方策

- ・既に留学生受け入れにおいて実績のある姉妹校からの積極的に情報収集をする
- ・入学の手続き方法、在籍管理、支援体制など入学した学生が安心して過ごせる環境作り
- ・留学生向けのホームページ上コンテンツの強化
- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施回数を増加
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する

### ③ 特記事項

- ・平成28年度、初めて二名の留学生を受け入れ(介護福祉科 韓国人1名、医療事務科 ロシア人1名)

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・日本語学校をまわる広報活動を試してみても良い
- ・特待生制度も上手く活用していくと良い

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・29年度の目標として、教育理念である「技能と心の調和」を実践し、知識や技術の習得だけでなく、心の部分である人間性を高める教育を引き続き行なっていくことを目標とした。
- ・学修成果の目標値として皆精勤率 60%以上、退学率 4.4%以内、就職率 100%を設定した。
- ・28年度の自己評価の報告に対して、委員の方々から承認をいただいた。